

MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

MCN REPORT

本学における発明の
取り組みを紹介します

Vol.42
2020.2



本学における発明の取り組みを紹介します(1・2ページ)



三重の保健医療を支える
未来の看護職者育成プログラム交流会(4ページ)

主な内容

本学における発明の取り組みを紹介します	1・2
連携協力協定病院（鈴鹿中央総合病院）	3
ボランティア活動報告会	4
大規模災害に備える ～総合防災訓練～	5・6
地域交流センター 第3回公開講座	6



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



大学マスコット
キャラクター
「みかんちゃん」

本学における発明の取り組みを紹介します

本学は、地域の保健・医療・福祉の向上への貢献をめざし行政や医療機関、企業などさまざまな主体と連携しながら、地域・社会・臨床現場のニーズに応じた研究（看工連携）を推進しており、過去には本学と県内企業との看工連携による共同研究の成果を基に開発された製品が販売に至った事例もあります。

さらに、研究成果の社会への還元や、教員の研究に対するさらなるモチベーション向上のため、企業、臨床現場などと協力してアイデアの発掘に取り組んでいます。

また、地域貢献の観点から、地域交流センター事業として取り組みを進めています。

アイデアの種は現場から

本学は、昨年度から独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT)から産学連携知的財産アドバイザーの派遣を受け、本学の知的財産に係る体制の強化に努めています。

臨床現場では「かがむ姿勢がどうしても多くなり腰が痛い」、「あれだけ安全委員会の開催やヒヤリハット事例を共有しているのに針刺し事故が後を絶たない」など、困りごとでいっぱいです。

そこで本学では、アドバイザーの指導の下、若手教員を中心として、こうした臨床現場での困りごとやその解決策等を自由に意見交換し、発明につながるアイデアを創出するためのブレインストーミングを月一回定期的に行っています。さらに今年度からは、県内の病院へ出向き、臨床現場での困りごと等についてのブレインストーミングを行っています(現在6病院を訪問)。

また、公立の看護系大学(札幌市立大学、青森県立保健大学、岩手県立大学及び本学)で構成される「看護系大学連携による知的財産創出ネットワーク」に参画し、知的財産に係る情報交換及び相互研鑽を行っています。

本学で生まれた発明

本学初の特許出願案件となった「心肺蘇生用足趾支持台」は、昨年12月に特許証が交付され、本学における特許権第1号となりました。

また、ブレインストーミングから生まれたアイデアを具現化した「四肢洗浄用容器」は、昨年2月に特許出願を行いました。これら2件の発明は、現在、事業化に向けて取り組んでいます。

(1) 心肺蘇生用足趾支持台(特許第6634969号)

ベッド上の患者に心肺蘇生術を行う際に、術者の安定した足場を確保し、適確な心肺蘇生を行えるようにする台座



心肺蘇生用足趾支持台



特許証

(2) 四肢洗浄用容器(特許出願中)

寝たきりの患者等に対して、ベッド上で手や足をきれいに洗うための容器

看工連携ブレインストーミング

1月20日、県工業研究所や県内メーカー2社から担当者にご参加いただき、看工連携ブレインストーミングを行いました。本学からは、教職員11名と大学院生1名が参加しました。

クッションメーカーの開発者の方からは、ご持参いただいた自社商品数点をご紹介いただき、素材や臨床現場での商品化の実績、厚さや繊維の本数・密度の変化でさまざまな患者さんに対応できる点を説明していただきました。

参加者からは、介護現場での褥瘡防止、医療従事者の腰痛防止につながる靴の中敷、患者の体温調節、防災時の簡易ベッドなど、現場で活用できるアイデアの種が次々と出されました。



メーカー様からの説明



参加者からの意見

繊維メーカーの方には、市販のベビー服をご持参いただきました。

「臨床現場での使用を想定し、点滴をしたまま着替えるにはボタンの位置はどこにすればよいか」、「ボタンだけでなくマジックテープとした際に注意すべきことは何か」など、臨床現場を念頭に置いた実践的な意見が寄せられました。



実際に手に取って確認



新しいアイデアを生み出す看工連携ブレインストーミングについて、メーカーのご担当者からは、「会議で出されるさまざまなご意見が非常に参考になる。そうした種を一つひとつ拾い集め、商品化につながれば」との声をいただきました。

また、INPIT派遣アドバイザー（黒瀬博昭氏）からは「県内の病院を訪問すると、異口同音に同じ悩みごとが話題にのぼります。そうした悩みごとの解決にお手伝いできれば」との応援の言葉をいただきました。

本学教員は「領域医療の従事経験を持つ教員が知る『困りごと』が商品化につながれば、モチベーションもさらに上がる（長谷川講師）」「地方創生の趣旨からも、地元企業との連携は意味がある。技術力の高い県内企業に看護の観点が加われば、新発明が生まれる（齋藤教授）」との思いのもと取り組んでいます。

医療・看護への貢献や、医療従事者の勤務環境の改善にもつながる本学発の成果に、ご期待ください。

連携協力協定病院

連携協力協定病院のご紹介 ～鈴鹿中央総合病院～

すべての人に“寄り添う”ことを大切にした看護

鈴鹿中央総合病院は、地域の中核病院として急性期医療を行う役割を担っています。地域住民のニーズに応えるために、昨年度には救急センターの拡充、最先端治療が提供できる内視鏡センター、そして、鈴鹿市初の緩和ケア病棟の開設を終えました。設備の充実とともに、「救急医療」「断らない救急」「がん医療」「全人的ケア」に注力し、高度で良質な医療・看護を提供し、地域の皆さんに信頼される病院づくりに職員が一丸となって取り組んでいます。

看護部のビジョンは、「すべての人に“寄り添う”ことを大切にした看護」を掲げています。目指す看護師像は、高度な知識・技術と、豊かな人間性を兼ね備えた看護師です。看護師育成には、当院独自のキャリアラダー（SGH看護教育システム）を用い、日々の看護実践を通じて、人を思いやる感性や高い倫理観を養いながら、患者さんやご家族の心に寄り添える看護師の成長を支援しています。

現在、連携協力協定病院として、臨地実習の場として活用して頂いています。また、毎年人事交流として職員を派遣させていただくことで、基礎教育の場と臨床の場を繋ぎながら看護学教育に活かすことができます。今後も連携を深めることで、質の高い看護師の育成に取り組んでいきたいと思ひます。

（看護部長 喜多村 邦子）



鈴鹿中央総合病院



2019年新人看護師「野外研修」

病院情報

三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院（昭和13年5月開設）

❖ 病床数：一般病床 460床（うち緩和ケア病床20床）

❖ 診療科目：27科 内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、血液・腫瘍内科、呼吸器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、精神科、麻酔科、皮膚科、放射線治療科、放射線科、リハビリテーション科、神経内科、眼科、呼吸器外科、心臓血管外科、リウマチ科、病理診断科、緩和ケア内科

❖ 職員数：893人（うち看護師460人）（令和2年1月1日現在）

連携協力協定病院一覧

県内11病院

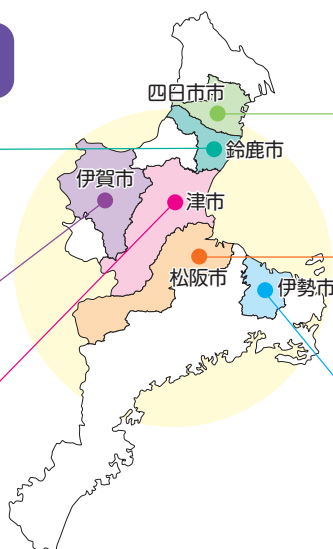
● 三重県厚生農業協同組合連合会
鈴鹿中央総合病院

● 社会医療法人畿内会 岡波総合病院

● 三重県立こころの医療センター

● 独立行政法人国立病院機構 三重病院

● 三重県立一志病院



● 地方独立行政法人
三重県立総合医療センター

● 松阪市民病院

● 社会福祉法人恩賜財団
済生会松阪総合病院

● 三重県厚生農業協同組合連合会
松阪中央総合病院

● 日本赤十字社 伊勢赤十字病院

● 市立伊勢総合病院

（令和2年2月末日現在）

大学の出来事

三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会

12月8日、令和2年度特別入試による入学予定者とその保護者を対象に、三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会を実施しました。

これは、県内で活躍する卒業生や県内医療機関の担当者からお話をいただき、三重県の看護や保健医療についての知識を深め、入学予定者自らのキャリア形成に向けたモチベーションを向上させることを目的に毎年行っているものです。個別相談の場も設けられ、入学予定者たちは各ブースで積極的に質問をしていました。

また、看護の学びに必要な「化学」、「生物」の知識をおさらいする入学準備教育スクーリングを12月に各1日実施しました。



12月8日(日)

令和元年度卒業研究発表会

12月24日、本学4年生103人による令和元年度卒業研究発表会を開催しました。

7会場に分かれて集まった同級生や教職員、来年度卒業研究を履修する3年生など満席の聴講者を前に、4年生が自己の研究成果を発表しました。卒業研究は、教員の指導の下、学生自らがテーマに沿って研究計画を立案し、データを集めてまとめる、いわば本学での学びの集大成です。

教員や同級生たちに向けた発表は、かけがえのない貴重な経験になったことでしょう。本学で4年間をかけて培った学びと研究は、それぞれの現場で「実践」へとつながっていきます。



12月24日(水)

令和元年度後期修士論文発表会

1月22日、令和元年度後期大学院看護学研究科修士論文発表会を開催しました。

修士論文、特定課題の研究成果の発表は、基礎的研究能力や研究への姿勢を問われる学位授与のための審議過程の一部であり、修士論文コース6人、専門看護師(CNS)コース1人の計7人の学生が、それぞれの教育研究領域における研究成果を発表しました。

学位取得後は、高度な専門知識と実践能力を備えた専門的職業人として、看護学の探究と発展に寄与することが期待されます。



1月22日(水)

★ボランティア活動報告会★



11月7日のお昼休みに学生ホールにおいて、令和元年度ボランティア活動報告会を開催しました(学生約60名が参加)。

ボランティア活動に参加した2名の学生が、スポレクフェスティバルで着ぐるみを着てイベントに参加したり、ナイトスクールで中学生に勉強を教えたりした活動を発表しました。また、同スポレクフェスティバルの主催者であり三重県スポーツ少年団事務局の杉嶋克之様から、今年度の開催予定などについてお話をいただきました。

本学学生のボランティア活動参加体験を報告会参加者が共有し、また、主催者側の様子も知ることができ、とても有意義な時間でした。より多くの学生がボランティアへの関心を高め、参加してもらえることを願っています。

大規模災害に備える ～総合防災訓練～

12月16日の正午、三重県南東沖の南海トラフを震源とする震度6強(津市)の大規模地震が発生した想定で、総合防災訓練を実施しました。学生と教職員など258名が参加し、初動体制を確認するとともに、学内の防災意識の高揚を図りました。

① 通報・連絡訓練

12時00分、学内全館に緊急地震速報の試験放送が流れ、訓練が開始されました。

放送では、大地震の襲来に備え身の安全を確保するよう指示があり、大講義室では授業を中断し、教員と学生が机の下などに身を隠しました。

その後、避難場所(本学講堂)の安全が確認されたことから、館内放送を通じて学内の全員に対し講堂に避難するよう伝えられました。

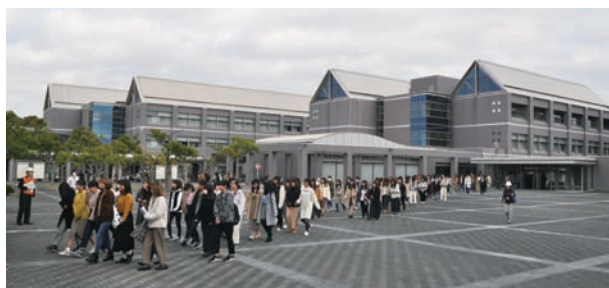


机の下に身を隠す学生たち

② 避難訓練

12時03分、学生、教職員等は、避難場所である講堂に向けて一斉に避難を開始しました。

学内各所には誘導役の教職員が配置につき、講堂に避難する学生、教職員等を安全かつ的確に避難させるよう避難路の確保と誘導を行いました。学内に逃げ遅れた者がいないか見回り等を行う一方、講堂内で避難者数を確認しました。無事全員避難が完了した後、災害対策本部長の菱沼学長が避難訓練について講評を述べました。



避難場所に向けて一斉避難



避難場所で避難者数を確認



防災意識の大切さを説いた本部長の講評

③ 大規模地震発生時初動対応訓練

12時17分、講堂内ロビーに集まった教職員に、菱沼本部長が災害対策本部の設置を宣言し、総務班、学生支援班、地域住民支援班、医療支援班の各班に対し大規模地震災害対策マニュアルに基づき行動するよう指示しました。

各班長は、直ちに班員を集めて行動を開始しました。

医療支援班は、学内2カ所に設置されたAEDと管理棟の車椅子の状況を確認するとともに、学内3カ所の防災備品倉庫内の防災用備蓄食料(水、アルファ米、災害用備蓄パン)を確認しました。



医療支援班による備蓄食料の確認

④ 災害対策本部設置訓練

12時35分、管理棟大会議室で第1回災害対策本部会議を開会しました。

各班長から各班が把握した情報について報告が行われるとともに、その内容はホワイトボードに要点筆記されました。

各班長からの報告の後、意見交換が行われ、避難誘導時の声掛けや要員の配置場所、学外からの避難者が相次いだ場合への対応などについて、意見が出されました。



災害対策本部会議での情報共有

⑤ 災害時等緊急連絡網運用訓練

お昼休みを利用した上記訓練のほか、教職員間の災害時等緊急連絡網を確認する伝達訓練を併せて実施しました。

18時00分、災害対策本部から教職員に電話が発信されると、あらかじめ定められた緊急連絡網により情報を伝えていきました。そして18時30分、最終受信者からの連絡が同本部に届き、情報伝達訓練を完了しました。

● 安否確認システム操作訓練

総合防災訓練の実施に先立ち、11月21日から約1週間、安否確認システム操作訓練を実施しました。

このシステムは、大規模災害時などにおいて、学生や教職員があらかじめ登録したスマートフォンなどのメールアドレスに対し大学が安否確認を送信し、各自の安否状況を登録するシステムです。学生の安否状況は保護者にも伝達可能なシステムとなっています。

対象者521名の返信率は94.6%（返信者493名）で、これまでの訓練での最高値でした。

一方、未返信者がまだいることから、引き続き、このシステムの重要性はもとより、大学からのメールの定期的な受信確認・登録の徹底を学生に周知します。

地域交流センター 第3回公開講座

認知症ポジティブ！ 笑顔の暮らしのコツ

1月11日、地域交流センター令和元年度第3回公開講座を開催したところ、約380人が来場し耳を傾けました。

今回の公開講座は、NHK津放送局、NHK厚生文化事業団中部支局の「NHKハートフォーラム」としても実施したもので、群馬大学名誉教授で認知症介護研究・研修東京センターの山口晴保センター長をお招きし、「認知症ポジティブ！ 笑顔の暮らしのコツ」をテーマに、ご講演をいただきました。

講演では、本人も家族も支援者もそろって笑顔になれるポジティブケアについて、時折、参加者と一緒に歌ったり体を動かしたりしながら楽しく分かりやすくご紹介いただきました。

—— 認知症になっても幸せに生きられる

家族や支援者にも思いがけない効果をもたらす認知症の人へのポジティブな接し方（認知症ポジティブ）を教わって、来場者からは、ポジティブに生きることの大切さが分かった、認知症を恐れず生きていこうと思った、などの感想が寄せられました。



認知症ポジティブの話に耳を傾ける来場者

さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生の修学支援のための基金への寄附のお願い～

本学では、平成29年の開学20周年を契機に学生の修学支援に活用するための基金を創設しました。

この基金は、「みかん大進学支援給付金」の財源として、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、本学への進学の目的及び意志が明確であるにもかかわらず、経済的理由により進学が困難な人への入学時の給付金に充てられます。

基金創設の際には、同窓会や後援会等の多くの皆さまからご厚志を賜ったところですが、継続的に安定した学生への支援を可能とするため、引き続き、皆さまの格別のご協力とご支援をお願い申し上げます。

◆令和2年2月末現在の状況

寄附総額 6,181,000円

寄附者数 個人 51人
法人・組織 12団体



■お知らせ■

本寄附金は、総務大臣及び文部科学大臣の承認を得て、所得税の税額控除の対象となりました。詳細は事務局までお問い合わせください。(平成31年1月～令和5年12月寄附分)

お問い合わせ

寄附に関すること：事務局企画総務課

給付金に関すること：事務局教務学生課



公立大学法人
三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘一丁目1番地1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>



本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。

広告

医療と福祉をつなぎ いのちの虹になりたい

～それが日本最大の社会福祉法人済生会の願いです～



「癒しの看護」

患者さんが心身ともに安らかな状態にあるように看護を提供します。



社会福祉法人
恩賜財団

済生会松阪総合病院

〒515-8557 三重県松阪市朝日町1区15番地6

TEL:0598-51-2626 FAX:0598-51-6557

URL:<http://www.matsusaka.saiseikai.or.jp/>



三重県立看護大学 地域交流センター

令和2年度 第1回公開講座

三重県立看護大学地域交流センターでは、どなたでもご参加いただける公開講座(年3回予定)を令和2年度も開催します。第1回公開講座は次の日程で開催する予定です。

日時／6月27日(土) 13:10～14:40

場所／本学講堂

テーマ／(仮)食中毒について

講師／大阪府立大学教授 山崎伸二先生

入場料／無料

問い合わせ／地域交流センター(☎059-233-5610)